

令和4年4月（2022年）No.676

## 例会場でNHKより取材受ける 合原会長ほか会員の万博の思い出話等

### 4月15日(金)17時からの「NEWS きん5時」で全国放送

去る3月第4土曜日、夜の例会前の午後、大阪市立難波市民学習センター例会場で、NHK側6名の取材陣に囲まれて、合原会長をメインに、其の他、岡本、進藤、野田、中川の各氏を交え、NHKアナウンサーの「武田真一」氏と対談しました。テーマは「大阪万博」開幕時の思い出話を中心でした。まず合原一夫作「万博の夢」及び「西から東からコンニチワ」の8ミリフィルム作品を上映し、当時の華やかな時代の事や家庭に地方からの親戚や知人が万博見物のためにやってきて、家中その接待にてんやわんやだったこと等を、改めて思い出し、懐かしい話に会話も弾みました。上記の2作品はホームムービーとして制作したもので、ほとんど未公開の物で、会員諸氏も初めて見る作品でした。

取材陣はチーフディレクターを始め、録音係やメインカメラマンとサブカメラの女性、それに司会者の武田真一氏など、さすがプロの作る番組だなと感心しました。私達アマチュア人は、これらをすべて一人でやっているわけで、プロとアマとの作品創りの取り組み方が根本的に違うことを改めて感じた次第です。編集は別の人やるそうです。この取材日の数日前にはチーフディレクターと会員数名が第2例会の後の喫茶店で初顔合わせして番組制作の狙いなどの説明を受けております。

放送は毎週金曜日の午後4時50分から6時まで全国放送されている「NEWS きん5時」という番組で、1時間ある枠の中で採り入れられるので、そのうち何分になるかは今のところ不確かですが、20～25分ほどだという事です。

4月15日金曜日 午後5時より全国放送楽しみに。  
皆さん是非見てね！

## 4月例会のお知らせ

- 4月23日(第4土曜日)18時より、難波市民学習センターにて
  - ・撮影会参加希望者は、当日参加費を納めて下さい。
  - ・作品を見せ合い、語り合い、ふれあいのひと時を大いに楽しみましょう。

## 撮影会 5月14・15日実施 3年ぶりの行事、祈・成功

コロナ禍でこの2年間中止してきた撮影会は、今年こそ実施しようと進藤企画担当役員の元計画を進めてきましたが、下記の通り決まりました。

行先；兵庫県福崎町

撮影対象；柳田国男関連、妖怪達

実施日；5月14日(土)から15日(日)

参加費；1万5千円、日帰り者は5千円

4月例会で納めて下さい



### 課題コン「友」の制作は進んでいますか？忘れないで！

- コンテスト公開審査日は5月第2例会日

#### ■ 映像発表会の予約申し込み制の課題

去る3月27日大阪市立中央図書館で行われた映写会は、コロナ禍のもと何かと制約を受けての催しでしたが、まずは予定通りの進行で無事終了し、ほっとしました。実施に当たっては、入場者資格をめぐって図書館側と若干のもめ事がありましたが、今回の反省材料になりました。

来場者の中には、事前申し込みで当選した人に渡している参加証を持たずに来場してきた方があり、図書館側の係の人に気づかれ、入場を固く断られた事例が出ました。

当選者が当日欠席という知らせを受けていた数名の方がいたので、席には余裕があるので、せっかく来場されたので入ってもらってもいいのでは、とスタッフから助言しても、規則だからとロビーのテレビ鑑賞も許されず、当人は怒って退場。こうした場合の対応を次回から要検討です。

## 3月通常例会レポート

通常例会は第4土曜日26日18時より開催。

当日午後は表紙頁に紹介した通り、例会場でNHKの取材があったので、終了後急ぎ椅子やテーブルの配置換えをして例会に具えたのだった。今日は久しぶりに元会員の前田氏が出席され、野田会員の満州引き上げを記録した著書を基に映像化された作品を持参された。

- 運営担当：司会 進藤、書記 合原、YouTube関係 高瀬、映写 坪井、メモリー記録 中川、受付・照明 森下、宮崎の各氏

- 出席者：岩井、江村、岡本、上総、合原、紙本、進藤、高瀬、坪井、中川、野田、宮崎、森下、山本、前田（ゲスト）の15氏

上映作品（今月の書記評は後述）

#### 1, 加悦鉄道 BD

江村一郎 7分30秒

<作者コメント> 大正15年に丹後ちりめんを京阪神に運ぶ為に加悦駅から国鉄丹波山田駅までの5.7kmを結んでいた。後年には大江山のニッケル鉱石も輸送したが昭和60年に廃線となった。廃線跡は設立が地元出資という事もあったか、大切に保存され整備されている。



#### 2, 大相撲三月場所 四日目 BD

上総秀隆 16分06秒

<作者コメント> 大阪では3年ぶりの有観客興行。テレビではめったに見ることが出来ない映像をご覧ください。



### 3, 地蔵大松から大棕へ

BD

紙本 勝

9分35秒

＜作者コメント＞ 三重県には大松があり、松としての大きさに驚きでした。又、棕本町の町名の由来となった大棕は国内最大級というのに圧倒されます。幹回り14mだったものが、明治3年の台風で枝が折れ、現在の8mになったと言う。



### 4, 東海道 京～坂下

BD

山本正夢

9分30秒

＜作者コメント＞ 旧東海道を編集しようとすると、やはり京都から始めなければまともないので行ってきました。



### 5. 小さな旅日記

BD

坪井仁志

11分00分

＜作者コメント＞ 今月18日、四日市の門脇さんが88歳米寿のお祝い会を開催され招待をうけて行く事になった。久しぶりの故郷なので思い切って足をのばし、懐かしい川と鉄橋を見て、墓参りもすることができた。四日市では50年ほど前に祖父と親父と私の三代で市役所の外壁を塗った思い出がよみがえった。門脇さんや三重の方々とは私が桑名で8mmを始めた20歳くらいの頃から親しくさせていただいている。また、兄とも思う伊勢の長尾さんに歓待していただき伊勢参りもできて楽しい休日を過ごせた。そんな旅日記を記録した。



### 6, 和泉リサイクル環境公園

BD

中川良三

5分38秒

＜作者コメント＞ 毎年3月は和泉リサイクル環境公園の満開の梅を観るのを楽しみにしている。今年も順調にしだれ梅が咲いて、大勢の方が観に来られていた。今年は、360度のカメラで撮影を試みたが、前面と背面の境に歪みが出ているのが難点で、ご容赦願いたい。

公園を周回しているだけですが、来訪者が梅を楽しんでいる雰囲気を感じて頂ければと思います。



### 7, なかへち音頭

BD

岡本至弘

5分15秒

＜作者コメント＞

2006年9月に制作したDVテープよりBDに変換しました。撮り溜めた映像を「なかへち音頭」という曲に併せて編集したものです。わたしの故郷の音頭です。



### 8, 西高瀬川

BD

高瀬辰雄

17分20秒

＜作者コメント＞

西高瀬川は江戸時代に、丹波から保津川を使って運ばれてきた木材を、京都の街中に筏で運搬するために開削された運河です。その運河の起点、嵐山から終点三条千本まで8キロをたどってみました。

運河には先人の知恵や工夫、努力がいっぱい詰まっていました。



### 9, あゝ通り抜け

DVD

合原一夫

5分30秒



大阪造幣局の通り抜けは、毎年大勢の人出で人気抜群だが、このところコロナ禍で中止されていて残念だった。今年は人数を絞って再開するそうだ。大阪名物が復活するのはうれしい。

さてこれは往年の8ミリフィルム作品だが、昭和63年頃の通り抜けの状況を今見ると大変な人出だったことが判る。

この通り抜けの状況を作品にしようと、テーマを絞ったのが枝に下げられていた短冊（たんざく）に書かれた一編の川柳「通り抜け、見返りながら押し出され」であった。この川柳を基に今は亡き妻の協力を得て、この作品が生まれた。



#### 10、佐渡島 金銀山跡をたどる BD

進藤信男 14分00秒

##### <作者コメント>

2008年と2009年、佐渡島では朱鷺の自然界放鳥が行われたので撮影に出掛けた。その時は、朱鷺以外についてもいくつかの作品にまとめたが金山については、現地でも公開準備段階のようで情報も得難く順送りになっていた。今回コロナ禍により撮影のための遠征が難しかったが、鉱山として世界遺産登録が取り上げられていることもあり取り組んでみた。



鉱山は、時の統治体制と深く関係して政争の的にもなり、時代を支える力にもなる。佐渡金銀山ほどの規模になると、なおさらである。そこで働く人々たちにとっては、過酷な労働条件があるため兎に角暗い話になりやすいが、佐渡島では比較的よく公開され残されているように思えた。

今回は江戸時代までの様子が伝えられている。地下の鉱脈など埋蔵量に限界がある資源だが、産業遺産として捉えて、後世に伝えていくことが大事だと思える。

今回の作品では、映写会やネットワーク利用などのように公開方法による音量の世界標準とされている

「ラウドネス基準 ITU BS. 1770-3」をはじめて適用してみた。編集ソフトウェア「Adobe Premiere Pro」で提供されている機能である。単独作品では分かりづらいが、ムービーデータとして公開するとき、再生機器や操作の影響を受けるものの「歪の無い音の標準的な大きさを知る」意味があるのではないかと考えている。

#### 11、モノづくりに生きて BD

前田茂夫 14分55秒

##### <作者コメント>

平成28年 OMC ミニ撮影会作品です。満蒙開拓団に入って、ご苦労をされた創業者野田会長の著作を組み込みドキュメンタリー風作品にまとめました。



## 今月の作品総評

担当書記 合原一夫

今月11本の作品が出たとは、うれしい驚きです。コロナ禍のもと皆頑張って作品創りをされていることに、まず敬意を表します。江村さんの「加悦鉄道」、廃線紀行をずっと追っていられる作者ですが、こういうテーマは健脚が物を言います。よく調べて映像化されていました。「大相撲三月場所四日目」上総さん。人の少ない前半から終わりの盛会ぶりまで、NHKでは撮れないカットが印象に残りました。但しプロの興行物は公開映写会には出せない。仲間内だけの作品と考えると下さい。

紙本さん「地蔵大松から大掠へ」巨木を追って三重県まで足を運ばれた健脚に脱帽。「東海道」山本さん、うまく要領よく描かれており、次作が楽しみ。「小さな旅日記」坪井さん。題名の付け方がマッチ。新しい表現映像に注目。高瀬さん「西高瀬川」、よく調べて川を追いかけた努力作。唯、力作の割に何か物足りない感じ。

「佐渡島」進藤さん、以前撮られたものをこの程編集されたとか。いろいろ盛沢山のカットで全体の印象が散漫になったのが惜しい。脚本次第でよくなる筈。前田さん「モノづくりに生きて」さすがにドキュメンタリー派の作品、但しプロ映像多用に課題

### 3月第二例会レポート

第2例会は第3木曜日17日13時より開催。

第2例会は午後4時半過ぎに終わったがまだ蔓延防止処置が解除されず、飲み会組は店が閉店の為惜しくも断念、喫茶店組は営業していたので映像談義に花を咲かせ、NHKの方と取材の打ち合わせも出来た。

運営担当：司会 進藤、書記 高瀬、YouTube 関係 高瀬、映写 中川、メモリー記録 江村、受付・照明 森下、宮崎の各氏

■ 出席者：植村、江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、高瀬、宮崎、森下、山本の11氏

上映作品（今月の書記は紙本氏）

#### 1. 砂に書いた願いごと BD 岡本至弘 7分30秒

（作者コメント） 2011年5月28日～29日に行われたOMCの撮影会作品です。場所は南紀白浜の砂まつりです。現地のビデオサークル紀南の協力を得て実施したものの、折からの台風接近の予報に見舞われ、散々の撮影会でしたが、参加者は嵐の中にも関わらず、熱心に撮影されて、それなりの作品をつくられました。私は実家の近くとあって再度の撮り足しで作りました。元作品はDVテープ作品をダビングしたもので、ところどころノイズが入っていたので再加工しました。

（書記コメント） シャレた感じのタイトルが効いている。砂に書いた「あした天気になーれ」の願い事は叶わなかった撮影会作品だが、撮り足しもされ、これまでに見せてもらった他会員の作品と違った趣向の作品に仕上げられている。



#### 2. 草津～愛知川 中山道 BD 山本正夢 9分20秒

（作者コメント） 江戸からの中山道は東海道と合流する草津で終わります。今回は取りあえず草津から始めました。

（書記コメント） クルマで旅をして撮影するのが楽しみという山本さん。海外旅行がままならない今、国内の街道をテーマに毎月、精力的に撮影し、作品をつくられている。街道は似ているところもあるので、それぞれの街道のポイントをつかむのが難しそうである。なおネットで調べてみると、街道の数は全国に513あるようなので、撮影のネタが尽きることはなさそうです。



#### 3. 般若はん DVD 宮崎紀代子 8分10秒

（作者コメント） 般若はんは、龍雲寺の伝統行事です。1827年（文政10年）当時コレラが大流行していました。村の各戸を廻って募った寄付で大般若経600巻を買い、龍雲寺でコレラを鎮める祈祷をお願いしました。以来、人々は新年に集まって一年の幸せを祈る行事になっています。

（書記コメント） 大般若経600巻を転読という方法で短時間で読む行事。その昔、龍雲寺ではコレラ退散を願って始められたそうですが、今年はコロナを鎮める思いも込められているのでしょう。転読のアップも随所に入れられ、祈りの気持ちが伝わってきます。



#### 4. 嵐山花灯路 BD 江村一郎 7分30秒



(作者コメント) 嵐山の紅葉が終わる時期に始まる恒例のイベントです。今年はコロナの影響で規模を縮小して開催された。嵐山地区の嵐山をライトアップするほか、嵯峨地区の渡月橋と竹林のライトアップが幻想的な風景を映す。

(書記コメント) まだほの明るい時間から晩秋の紅葉風景を撮られ、次第に暗くなり、ライトアップという流れで引き込まれていく。いろいろな光のオブジェも奇抜で面白い。いずれにしても嵐山花灯路は昨年限りで終了。二度と撮れない貴重な記録でもあります。

#### 5. 道明寺天満宮 梅

BD

中川良三

6分20秒

(作者コメント) カメラを買い替えたのでテストで撮影に。手持ちで撮ったので少しブレがあるが、手振れ補正を編集時、苦労してかけ、軽減している。やはり固定して撮るのが一番と反省！道明寺天満宮の梅を撮影するのは久しぶり、人出も平日にしては多く、皆さん観梅を存分に楽しんでた。



(書記コメント) 新調したカメラのテストということで、試しつつ撮られている様子が窺える。ただしラストが撫で牛のアップで突然、終わるのは唐突過ぎると思います。カメラを買い換えた時、特にメーカーが違くと、慣れるまで苦労する。

#### 6. 洛楽人工房

BD

高瀬辰雄

8分40秒

(作者コメント) 知人の呉服製造問屋に頼まれて、制作したものです。きものや帯の販売方法の一つに呉服小売店が馴染みのお客を集めて、メーカーに連れて行き、そこで売るという仕組みがあります。これは呉服メーカーが小売店に対してお客を募って連れてきてくださいという趣旨のPRビデオです。



#### 7. 電気屋さんのお仕事

BD

上総秀隆

4分55秒

(作者コメント) 建築工事に欠かせないのが電気工事。美しい住まいを実現するために電気屋さんの腕の見せどころを追う。

(書記コメント) 電気工事の仕事はリフォームが完成すると、ほとんどが見えなくなってしまうことが多いですが、美しい住まいのためにいろいろ手間をかけられていることを改めて知らされました。電気工事というポイントを絞って、まとめられたのが良かったと思う。



#### 8. 西から東からコンニチは

BD

合原一夫

15分00秒

(作者コメント) 1970年(昭和45年)大阪万博開催の年、寝屋川の会社の社宅に住んでいた頃、万博見学のために、狭い2DKのわが家に西は九州から東は名古屋、東京から多くの客がやってきた。わが家はてんてこ舞い、その数、実に延べ100人に及んだ。万博の終わり頃、初めてわが家一家4人揃って万博見学が実現、楽しい1日だった。万博騒ぎ、一体何だったのか。この作品をNHKの人が見て、近く次の大阪万博を見据えて取材に来るといふ。次の万博、まだ元気であるかどうか判らないが、かつての大阪万博のような騒ぎにはならないだろう、何か少し遠い感じがする。

(書記コメント) 1970年の大阪万博見学のため合原家に100人ほどの親戚、知人がやってきた、その騒動、ユーモアを交えて描かれている。てんてこ舞いの最中、何を写せばいいか、後の作品作りを考えて撮影されているように感じられるのはさすがだと思います。

